安 全 デ ー タ シ ー ト

酸化マグネシウム

飼料品質改善協議会
プレミックス研究会
作成年月日：2026 年 2 月 20 日

1. 化学品名及び会社情報

化学品の名称	酸化マグネシウム
供給者の会社名称	ロック化学製品株式会社
住所及び電話番号	東京都目黒区碑文谷五丁目 29 番 10 号
	TEL: 03-5731-9569
用途	飼料または飼料添加物
使用上の注意	なし

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	分類対象外
	可燃性ガス	分類対象外
	エアゾール	分類対象外
	酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	区分に該当しない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性化学品	分類できない

	鈍性化爆発物	分類できない
健康有害性	急性毒性（経口）	区分に該当しない
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類対象外
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	生殖毒性・授乳に対する又は授乳を介した影響	分類できない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 3 （気道刺激性）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性　短期（急性）	分類できない
	水生環境有害性　長期（慢性）	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示または
シンボル

注意喚起語	警告
危険有害性情報	強い眼刺激 呼吸器への刺激のおそれ
注意書き	
安全対策	取り扱い後は手をよく洗うこと。眼には触らないこと。必要に応じて保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避ける

	こと。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
応急措置	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合：医療処置を受けること。 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、診察を受けること。
保管	換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 施錠して保管すること。
廃棄	内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名又は一般名	酸化マグネシウム
慣用名又は別名	マグネシア (Magnesia)
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS No.1309-48-4
成分及び濃度又は濃度範囲	100%
分子式（分子量）	MgO (40.304)
官報公示整理番号	1-465 （化審法）

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 症状が続く場合には、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	大量の水で洗うこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
眼に入った場合	水で 15～20 分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	水で口をすすぎ、直ちに医師の診断を受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な微候症状	データなし
応急措置をする者の保護	救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項	データなし

5. 火災時の措置

消火剤	周辺火災に応じて水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素を使用する。
使ってはならない消火剤	火災が周辺に広がる恐れがあるため､直接の棒状注水を避ける。
特有の危険有害性	火災等の場合は､毒性の強い分解生成物が発生する可能性がある。
特有の消火方法	消火活動は風上から行う。 火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な保護具や耐火服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	関係者以外の立ち入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(「8.　ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 個人用保護具;空気中濃度に応じた粒子用フィルター付マスク。
環境に対する注意事項	周辺環境に影響がある可能性があるため､製品の環境中への流出を避ける。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	取扱いや保管場所の近傍での飲食の禁止。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 こぼれた物質を容器内に掃き入れる｡湿らせてもよい場合は、粉塵を避けるために湿らせてから掃き入れる。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、

	必要に応じて保護具を着用する。
安全取扱い注意事項	取り扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 粉じんの拡散を防ぐ。
接触回避	ハロゲンを含む物質及び強酸との接触禁止。
衛生対策	作業中は飲食、喫煙をしない。
保管	
安全な保管条件	施錠して保管すること。 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。 直射日光を避け、冷暗所に保管する。 強酸から離しておく。 乾燥
安全な容器包装材料	破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
日本産衛学会 （2015 年度版）	（吸入性粉じん） 2 mg/m3 （総粉じん） 8 mg/m3 （第 3 種粉じん: その他の無機及び有機粉じん）
ACGIH(2015 年版)	TLV-TWA: 10 mg/m3 （Ⅱ）（酸化マグネシウム）
設備対策	粉じんが発生する作業所においては、必ず密閉された装置、機器または局所換気装置を使用する。
保護具	
呼吸用保護具	粉じんが発生する場合、必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	手に接触する恐れがある場合、保護手袋を着用する。
眼の保護具	眼に入る恐れがある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状	固体 (20℃, 1 気圧) (GHS 判定)
色	白色 (HSDB(2015))
臭い	無臭 (HSDB(2015))
臭いのしきい（閾）値	データなし
pH	10.3(20℃、飽和溶液) (GESTIS(2015))
融点・凝固点	2,800℃ (ICSC(2010))
沸点、初留点及び沸騰範囲	3,600℃ (ICSC(2010))
引火点	不燃性 (ICSC(2010))
蒸発速度（酢酸ブチル=1）	データなし
燃焼性（固体、気体）	不燃性固体 (HSDB(2015))
燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	0 mmHg(20℃) (NITE(2015))
蒸気密度	データなし
比重（相対密度）	最小値 3.2 最大値 3.75 (WebKis-Plus(2015))
溶解度	水に微溶(ICSC(2010))。酸及びアンモニウム塩溶液に可溶。エタノールに不溶(HSDB(2015))。
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	不燃性 (ICSC(2010))
分解温度	データなし
粘度（粘性率）	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	不燃性
化学的安定性	データなし
危険有害反応可能性	加熱時にアルミニウム粉末、過塩素酸アニリン、マグネシウム粉末、硫黄との接触により爆発が生じる危険性がある。 アンモニア、強酸、五フッ化臭素、三フッ化塩素、五塩化リンと危険な反応を生じる。 五塩化リンとの反応は白熱化を伴う。 ハロゲンを含む物質との接触は危険な反応又は発火を生じる。
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	加熱時にアルミニウム粉末、過塩素酸アニリン、マグネシウム粉末、硫黄との接触により爆発が生じる危険性がある。

	アンモニア、強酸、五フッ化臭素、三フッ化塩素、五塩化リンと危険な反応を生じる。 五塩化リンとの反応は白熱化を伴う。 ハロゲンを含む物質との接触は危険な反応又は発火を生じる。
危険有害な分解生成物	データなし

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	GHS 分類:区分外 ラットの LD50 値として、3,870mg/kg(雄)、3,990 mg/kg(雌)との報告(HSDB(2015))に基づき、区分外 (国連分類基準の区分 5) とした。
経皮	GHS 分類:分類できない データ不足のため分類できない。
吸入：ガス	GHS 分類:分類対象外 GHS の定義における固体であり、分類対象外。
吸入：蒸気	GHS 分類:分類対象外 GHS の定義における固体であり、分類対象外。
吸入：粉じん・ミスト	GHS 分類:分類できない データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	GHS 分類:分類できない データ不足のため分類できない。
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	GHS 分類:区分 2 本物質のダスト(濃度不明)にばく露された 95 名の作業者に軽度の眼刺激性がみられたとの記載(ACGIH(7th, 2003)から、「区分 2」とした。
呼吸器感作性	GHS 分類:分類できない データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	GHS 分類:分類できない データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	GHS 分類:分類できない データ不足のため分類できない。すなわち、in vivo のデータはない。In vitro では細菌を用いた復帰突然変異試験で陰性の報告がある(ACGIH(7th,2003)、HSDB(2015))。

発がん性	GHS 分類:分類できない ヒトでは職業的な本物質を含む複合ばく露により、複数臓器にがんの過剰発生が生じ、本物質ばく露による特異的な腫瘍発生は標準化罹患比(SIR)に基づき、口唇がん、胃がん、肺がんであると報告されたが、症例数が少ないこと、酸化マグネシウムへのばく露レベル及びばく露期間が不明で、結果の解釈には限度があると記述されている(ACGIH(7th, 2003))。また、ヒトで酸化マグネシウムのダスト、又はヒュームへの吸入経路による発がん性の証拠はなく、過去に溶接工で示唆された肺がん発生率の増加は酸化マグネシウムではなく、6 価クロムばく露による可能性が指摘されている(DFGOT vol. 2(1991))。 実験動物ではハムスターに本物質 2 mg/週を 30 週間気管内注入後、100 週間まで観察した結果、組織球性リンパ腫が増加した(ACGIH(7th,2003))との記述があるが、標準的なガイドラインによる発がん性試験報告はない。 以上、ACGIH は本物質の発がん性を A4 に分類しており、本評価においても本項はデータ不足のため「分類できない」とした。
生殖毒性	GHS 分類:分類できない データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性 （単回ばく露）	GHS 分類:区分 3(気道刺激性) 本物質は気道刺激性があるとの報告がある(ACGIH(7th, 2003)、DFGOT vol. 2(1991)、HSDB(2015))が、その他の急性影響は報告されていない。以上より、「区分 3(気道刺激性)」とした。
特定標的臓器毒性 （反復ばく露）	GHS 分類:分類できない ヒトにおいて、職業ばく露によるヒューム熱の報告があるが本物質による単独影響と判断するには、当該工場でのばく露評価が不十分と記載されている(ACGIH(7th, 2003))。 実験動物による有用な情報はない。したがって、「分類できない」とした。
誤えん有害性	GHS 分類:分類できない データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期（急性）	分類実施中
水生環境有害性 長期（慢性）	分類実施中
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては､関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。
汚染容器及び包装	容器は洗浄してリサイクルするか､関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	ー
国連品名	ー
国連危険有害性クラス	ー
副次危険	ー
容器等級	ー
海洋汚染物質	該当しない
MARPOL73/78 附属書Ⅱ及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	該当しない
国内規制	
陸上規制情報	消防法、道路法に従う。
海上規制情報	船舶安全法に従う。
航空規制情報	航空法に従う。
特別安全対策	移送時にイエローカードの保持が必要。 容器の破損、漏れがないことを確かめる。 荷崩れ防止を確実に行う。

該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
直射日光を避ける。
「6.漏出時の処置」を参照。

緊急時応急措置指針番号　ー

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

労働安全衛生法　令和 8 年 4 月 1 日からの施行(義務適用)
名称等を表示するべき危険有害物（≧1%）
名称等を通知するべき危険有害物（≧1%）

16. その他の情報　この安全データシートは、いくつかの情報を参考にして、飼料品質改善協議会 プレミックス研究会が作成したものです。全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報に漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じることがあります。重要な決定等にご利用される場合は、別途資料や文献を調査し検討するか、試験によって確かめることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常の取り扱いを想定しており、特殊な取り扱いの場合には別途注意が必要になることをご配慮ください。

＜引用文献＞

- 厚生労働省 職場のあんぜんサイト：モデル SDS「酸化マグネシウム」2015 年 11 月 30 日改訂版
- NITE 化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP）

＜改訂履歴＞

版	日付	内容
初版	2026 年 2 月 20 日	―